

座長コメント

- 本日の第7回有識者会議では、以下について議論を行った。
 - ① 前回会議でJR東海に対して作成を指示した、水循環の概念図については、座長コメントでとりまとめた「中下流域の河川流量が維持されれば、トンネル掘削による大井川中下流域の地下水量への影響は極めて小さい」こと等が図示された。今後、利水者等にわかりやすく説明するために、更に工夫するよう指示した。
 - ② トンネル湧水の大井川への戻し方については、トンネル湧水を戻すための具体的な方法や設備の規模、水質の管理基準等の計画がJR東海より示され、現時点で想定されているトンネル湧水量であれば、トンネル掘削完了後にトンネル湧水量の全量を大井川に戻すことが可能となる計画となっていることを有識者会議として確認した。本日の議論を踏まえ、更に科学的・工学的な視点を含め、計画の熟度を高めるようJR東海に指示した。
 - ③ 表流水、地下水等のモニタリング調査については、第6回会議で議論した化学的な成分分析も含め、調査の実施方法についての議論を行った。今後、利水者等の安心感が得られるよう、本日の議論を踏まえ、観測頻度の再検討等も含め、関係機関や専門家と連携したモニタリング計画の策定並びに体制の構築をJR東海に指示した。また、モニタリングで得られた大井川流域に関する情報を地域と共有する取組みについても、JR東海に対して要請した。
- なお、今回議論をする予定となっていた、工事期間中における山梨県側へのトンネル湧水流出量の評価等については、現在、JR東海において検討中である旨の報告があり、表流水の評価等と合わせて次回議論することとなった。